

2015～16年シーズンスノーパーク第2回運営会議開催



稚内北星学園大学 地域観光支援室

はじめに

藤崎達也本学講師（地域観光支援室副室長）は、2015～16年シーズンスノーパーク運営会議に参画しており、その第2回運営会議が開催された。

今年度は、昨年度の危険箇所などの手直しが必要となっている。昨年度は北海道開発技術センター（DEC）よりの研究助成金があったが、今年は予算措置がない。そのため、クラウドファンディングなどを活用した資金集めが課題である。

これまでの活動経緯と成果

雪国で大切な観光施設であるスキー場経営は、スキー客の減少や自治体の財政難をうけて厳しい状態が続いている。一方で、北国の冬の健康増進や青少年の健全育成の観点から、スポーツ環境の充実が求められている。

昨年度、藤崎本学講師は地元の有志のボランティアをコーディネートして、こまどりスキー場にスノーボードパークを設置した。

工事に必要な重機などはスノーボードをする子供の親達が操縦し、本来であれば数百万円かかる工事を、わずか30万円ほどで行った。

このように、地方のスポーツ観光施設は協働型ユーザー（参考文献[1]）と呼ぶべき利用者と施設管理者等とのコラボで運営するモデルを模索する時期に来ている。

稚内市では、市教育委員会、指定管理者、そしてスノーボード愛好家がこれまでの、管理者—利用者の枠を超えたスキー場運営を始めた。本学は、施設運営のみならず、コミュニティ育成に寄与している。

会議の概要

今回の会議は、今年度の運営にかかる内容を議論する目的で、下記の通り行われた。

1. 日 時 9月30日（火）10:30～11:30
2. 場 所 (株) 稚内振興公社
3. 参加者 佐々木課長（稚内振興公社）
木村亘（seamore）
藤崎講師（稚内北星学園大学）
4. 内 容
 - 1) 2015～16年シーズンスノーパーク運営にかかるフェンドレイズについて
 - 2) クラウドファンディングサイト立ち上げにかかる打ち合わせ
・寄付者への記念品等の検討、打診
 - 6) その他
スキー協会等との事前打ち合わせの必要性など
今後のスケジュール確認

今後の展望

本事業には、引き続き藤崎本学講師がコーディネーターとして参画する。今後は、本学の進めている「地域の教育力向上とまちづくりで協働する地（知）の拠点整備」との連携を図り、本学の教育力向上にも結び付けられることが期待できる。

<参考文献>

- [1] 藤崎達也（2014）「協働型ユーザーによる地域スポーツ施設の運営管理モデル」『稚内北星学園大学紀要』第14号。

